

磐城時報

福島縣磐城郡平町編者十四
印刷所 加納印刷所
印刷部 加納印刷所
電話 二二二
代金 一月一元二角 三月三元五角 半年六元 一年十二元
廣告料 一行一十四字 一月一元五角 三月三元五角 半年六元 一年十二元
日刊 (日曜、祭日) 休刊

民間の犯人逮捕

最近五件に達す

横山平署長大喜び

玉川村大字野田字八合農小松徳彌(五八)は二十七日午前一時半頃自宅に忍び込んだ盗賊小野瀬彌介(三九)を逮捕した事別項の如くであるが、最近警察署の手を煩はさず民間で犯人を逮捕する者が非常に多く平署横山署長は頗る良い傾向だと喜んでゐる。即ち六月中には好間村植木職木田幸平が覆面強盗島新松(六九)を捕え玉川村大字林城長瀬左京は辻強盗犯人秋田寅之助(二八)を捕えた。外去月中には田久要吉が二十三夜奪得賽銭泥棒を捕え、内郷村では矢吹警察署からの脱走犯人を逮捕した等何れも民間で犯人を逮捕したものである。

共済委員会

石城郡内共済委員会常務委員会は二十七日午前十時から平町團體事務所を開き左の諸件を協議した。

- ▲指示事項
一、要保護者の発見並に保護に關する件
- 二、取扱件数報告に關する件
- 三、關係産業の普及に關する件
- 四、救済事業の發達促進に關する件
- 五、要保護児童の調査に關する件

▲諮問事項
一、現下の社會狀勢に鑑み特に急務を要する社會施設如何
二、取扱事項の發表

間の抜けた泥棒

主人が追ひ詰めて逮捕

前科三犯の大捕物

當時住所不定無職前科三犯小野め住吉地内の水田の中で捕え駐瀬彌介(三九)は二十七日午前十一時頃玉川村大字野田字八合農小松徳松(五八)方雨戸を破つて忍び入り金品を物色中主人が飛び起き出したので主人徳松が飛び起き逃げる賊を二丁餘追ひ詰

剣道大會

草野村で

四倉校で 童話講演

四倉小學校では二十五日梁川小學校訓導から福島高等商業學校に入學した戸澤綱夫氏を招き童話の講演會を催した。

小麥共同販賣

石城郡農産業組合聯合會主催の第二回小麥共同販賣は八月二十九日午前八時から審査を行ふが、出品は茄子、南瓜、トマ

奉安庫の樹木に 毎夜水をくれる男

奇特な植木職の行爲に 小學校長感激

連日の炎天で樹木が弱り切つてゐる折柄四倉小學校庭御眞影奉安庫の記念植樹に毎夜水をかけて呉れる者があつた。この奇特な行爲の主を調査したが判明せず、二十五日夜確かめるため校長自身が張番をしてゐた。午後十二時頃兩手に大バケツを持つた男が先づ奉安庫に拜禮した上樹木に水を與え去らうとするので呼止め身を聞いた處、四倉町仲町植木職黒田健治(五〇)さんと判明近頃の美談であると感激してゐる。

早大校友會懇親

磐城中學校出身早大關係者より成る勿來會は早大磐城校友會と改稱二十九日午後六時より平町谷口樓で總會を開く。

巡查異動

植田署巡查部長田母神一好氏は石城郡小名濱町に過般豚コレラ矢吹署に、四倉署増生幸次郎氏が三頭發生したので平警察署土は巡查部長となり植田署に、元屋技手は縣吏員と共に出張し豫を極むる模様なので管内全部の巡查管原壽雄氏は巡查となり四防に努めたが、二十六日小名濱豚飼養者に豫防の注意をなす事

呑氣な男 少年に財布を拘らる

西白河郡矢吹町字保土原山口幸一福(十三假名)は二十六日午前一時頃平驛待合室で居眠り中の宮城縣柴田郡舟岡村字新町舟山清助のポケットから現金一圓三十四錢在中の財布を拘り取つた事發覺前巡查に捕はれた。

信用組合會

山田信用組合、勿來信用組合の總會は二十八日午後一時夫々小學校に於て總會を開き勿來組合では終了後柴田、米山兩技師の農事講演がある。

詩南社で刊行

『はまゆふ』は平町詩南社で代表歌人自選歌集「はまゆふ」を發刊發賣中であるが、集むるもの石川梅子、戸部曙歌、大平松夫、吉田甫、高久晚霞、高木愛二、武田あけみ、根本橋日、黒江寛、熊谷企見子、山岸彩子、山野邊青甫、山下多賀子、松村清、井尻宛子、赤井獄男、秋間小路、澤美枝、作藤義家、佐々木顯、佐川和弘、美崎一郎、白木美尾各氏の代表歌約五百首である。定價一圓。石城地方に於ける最初の刊行で好評を博してゐる。

就職兒童慰問

平職業紹介所では新しい試みとして同所を介して就職した兒童百二十余名に對し二十六日暑中見舞を出し一同を激勵する一方左の事項の解答を求め明年度に於ける兒童就職輪旋の参考に處することになった。

下水工事

平町では長橋町から五丁目までの國道側溝並びに田町から國道を横断二丁目谷口樓前を通つて新川へ通ずる第一期下水道新設を行ふ事になり側溝は遅くも九月から、又下水道(暗渠)は去る十四日から新川排水口より着工目下鋭意工事を進めてゐるが、該工事は

又々豚コレラ發生

町字下明神町佐藤龜太郎方豚コレラ決定し、更に猖獗を極むる模様なので管内全部の豚飼養者に豫防の注意をなす事

正直少年

四倉町字仲町新妻忠五郎氏長男(八ツ)は二十六日午後二時頃四倉海岸で現金十二圓入の財布を拾得四倉署に届け出たが、菊田校長は例君の正直を表彰した。

二年間 姉を探し

土浦で邂逅
廿五日午後三時頃茨城縣土浦署の特高室で泣きながら抱擁して居る二人の娘があつた。此の二人は湯本温泉備中屋事島崎三五郎の長女艶子(二六)、次女安子(二二)の姉妹で、艶子は一昨年四月婚家から家出したまゝ、行方不明となつたので姉思ひの安子は東京市内のカフェーから市外のカフェーへ姉を探して通路の旅を續け

下町の水

平町では長橋町から五丁目までの國道側溝並びに田町から國道を横断二丁目谷口樓前を通つて新川へ通ずる第一期下水道新設を行ふ事になり側溝は遅くも九月から、又下水道(暗渠)は去る十四日から新川排水口より着工目下鋭意工事を進めてゐるが、該工事は

又々豚コレラ發生

町字下明神町佐藤龜太郎方豚コレラ決定し、更に猖獗を極むる模様なので管内全部の豚飼養者に豫防の注意をなす事

生家戀しく 飛び出した少年

二十六日午後六時頃四倉海岸を徘徊してゐる少年の舉動が不審なので四倉署員が調べたところ、縣多賀郡南中郷村大字柳野之助二男園部繁男(一六)と言ひ去る昭和四年湯本町三國栗原靴店に奉公したが七月三日飛び出し生家に歸る可く徒歩で松原町まで行つたが父に叱られるのを恐れ引かへし野宿し乍ら双葉郡龍田村まで辿りついたが職が見つからず四倉町に來たものと判明四倉署で保護中である。

戸籍面は 百四歳の男

平町役場では今回戸籍調査を行つた結果百歳及び百四歳といふ二人の高齢者を發見したのでよく調べて見たところ何れも物故者であつた事が判明平區裁判所に戸籍抹消を申請する事になつたといふ珍らしい問題が起つた。百才は材木町二十六番地奥村初吉と稱し天保五年生れで身寄りがなく約三十年前に死亡してゐる。

百四才は長橋町十六番地戸主松太郎祖父渡邊余吉で天保三年生れ今より何十年前に死亡したが一寸記憶がない位だから四十年近くにもならうと松太郎氏の談
宛に角戸籍面が生者だからこれまで選舉権などはどうした關係にあつたものやら色々附随した面倒な問題も起つて來るので平町でも頭を悩ましてゐるが、取敢ず平區裁判所に抹消の手續きをなす筈であるが、戸籍上の人間解消は近來餘り例のない事である。

暑中御伺

平町會議員研究會一同

平看護婦會

信用組合平庶民金庫

甲陽館

平町田町
電話一四八番

夏は海へ!!

賣店は初音!!

毎年御引立を戴いた初音は例年の通り海水浴場の賣店を開設致しました。納涼に、清遊に御出での際は是非御立寄りをお願い。奉仕的大勉強

四倉海水浴場 初音

名湯の御知らせ

御子供の虫に!!
御婦人の病は!!

玉山鑛泉に限る

(自炊の便あります)
石城郡大野村大字玉山字湯ノ澤

鑛泉旅館 藤屋

四倉驛より一里八丁
自動車の便あり

福島縣實業滿鮮視察團

僅かに二旬余の日子と少額の旅費を以て此意義ある壯圖に加はるゝことが出來ます何卒奮つて御参加あらん事を切望します

主催 福島新聞社

南滿洲鐵道株式會社

福島商工會議所

郡山商工會議所

後援
募集要項
昭和八年八月十三日
出期發
昭和三十年八月五日
人員間
三名
費用
金貳百貳拾參圓(汽車汽船各二等)
但縣人會の午餐會招待の豫定あり其費を除く
申込日期
昭和八年八月五日限申込と同時に
申込金參拾圓申受く
締切
八月五日
(尙詳細は本社平支局長山田警應電話六三一宛御問合を)

夜間
科内
病虫腸指二十
專門

腸胃

科内
病虫腸指二十
專門

梅毒

淋病
皮膚病
婦人病
專門

院醫科性病腸胃村松

(番七〇一電町南町平)

診療
内科 小兒科
花柳病科
藤沼醫院

藤沼醫院

平町紺屋町
電話平四〇七番

外務社員採用

初任固定給 月三十圓

廿五才以上 男、女、を問はず
履歷書携帶左記へ 面會毎日午後

平町田町一七

レストラン サロン方

仁壽生命平駐在 吉田仁三郎

電話三五二番

夏期中

自動車料金値下

夏期中「沼ノ内・薄磯・豊間・江名」方面
行浴客御便宜を計り左記の通り料金値下致候

沼ノ内 片道 二十五錢
薄磯 同 二十五錢
江名 同 三十錢
同 同 四十錢

印刷物は……加納活版所へ

強力殺虫殺蛆液

ペトリン (うじ殺し薬)
超強力にして發火の憂なく廉價使用簡易
▽便所、壓茶箱、床下、下水等に三十倍に
溶解して撒布

平町字四丁目

特約店 小野藥店
電話百四十四番